

南阿蘇鉄道高森駅・交流施設

—まちとカルデラをつなぐ 160m の木の広場—

設計：株式会社ヌーブ

neub

プラットフォームの上屋、庇、回廊、塔を「修羅組み」で一体化しました。温かい木の都市空間が列車を迎えます

■地方公共鉄道の創造的復興

2016 年 4 月、南阿蘇鉄道は熊本地震により甚大な被害を受けました。廃線も危ぶまれましたが、地震からの「創造的復興」のシンボルとして、高森町と南阿蘇村が線路と駅の維持を、南阿蘇鉄道株式会社が列車の運行を担う上下分離方式を導入し、新たな公共交通の姿を目指すことになりました。

南阿蘇鉄道の終発着駅である高森駅も被害を受けたため、くまもとアートポリス参加プロジェクトとして高森町が建替えることが決定し、2018 年に再開発グランドデザインのプロポーザルが開催されました。このプロポーザルは、駅舎のみならず、ロータリー、プラットフォーム、周辺景観のデザイン案も一体的に募るという画期的なもので、「とにかく広いプラットフォーム」を中心とした再開発を提案したヌーブの案が採用されました。

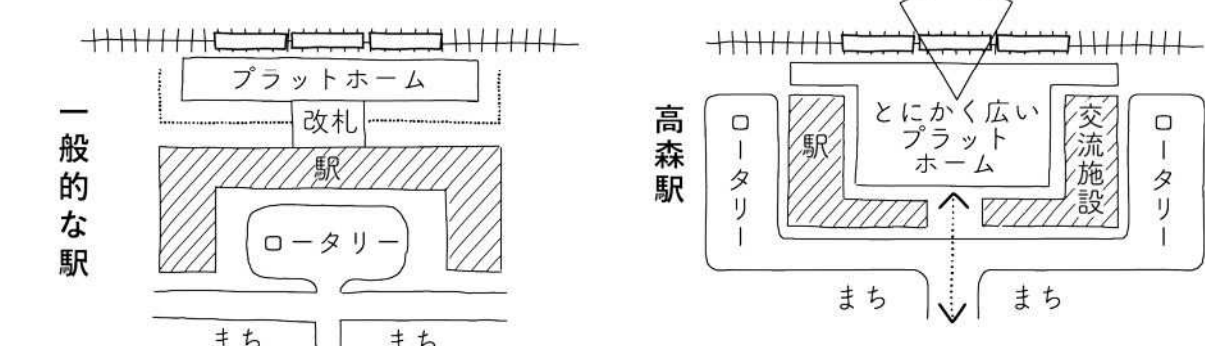


2023 年 7 月の南阿蘇鉄道全線復旧の喜び（左：長陽駅／右：高森駅）

■とにかく広いプラットフォーム

一般的に、駅は町を向くようにつくられますが、高森駅は逆に列車を迎える「とにかく広いプラットフォーム」側を向いてつくられています。車内改札方式で改札口がいないため、「とにかく広いプラットフォーム」には誰もが入ることができ、カルデラに落ちる夕日と列車の入線を見ることが可能です。この唯一無二の空間を、独自開発した 3 次元相持ち構造「修羅組み」で囲い、木の空間の心地よさ、地産材の頑丈さ、夜景の美しさをアピールする「160m の木の広場」としました。

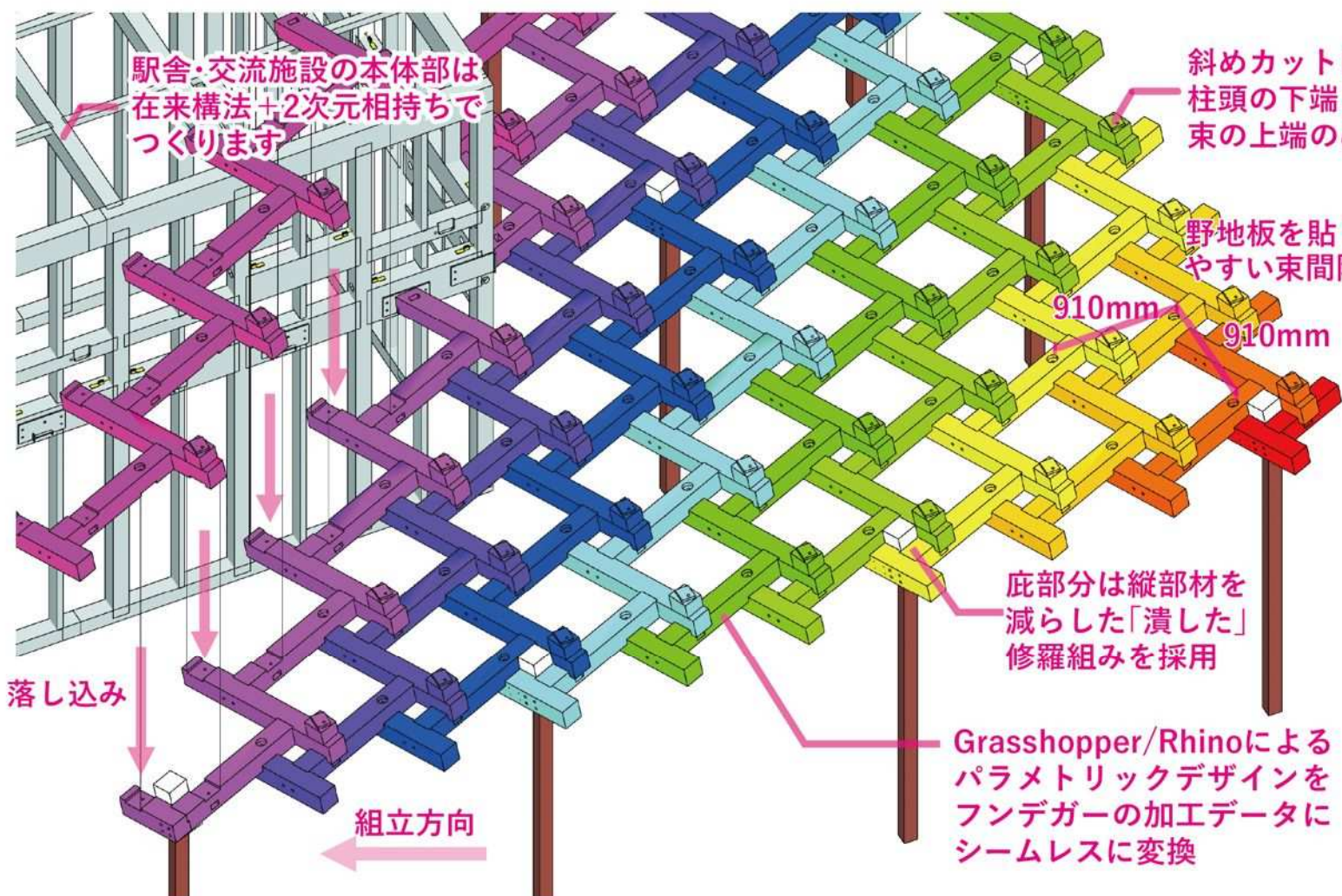
修羅組みはパラメトリックに設計し、庇では薄く潰し、塔では積み重ねるなど、場所ごとに違う組み方にしています。また、職人ワークショップでモックアップを作成し組立て順を確認したり、修羅組みパズルをつくって中学生に木組みの面白さを伝えるなど、地域の木産業振興の試みも行いました。



一般的な駅構造（左）とは全く違う高森駅の駅構造（右）

■修羅組みの技術開発

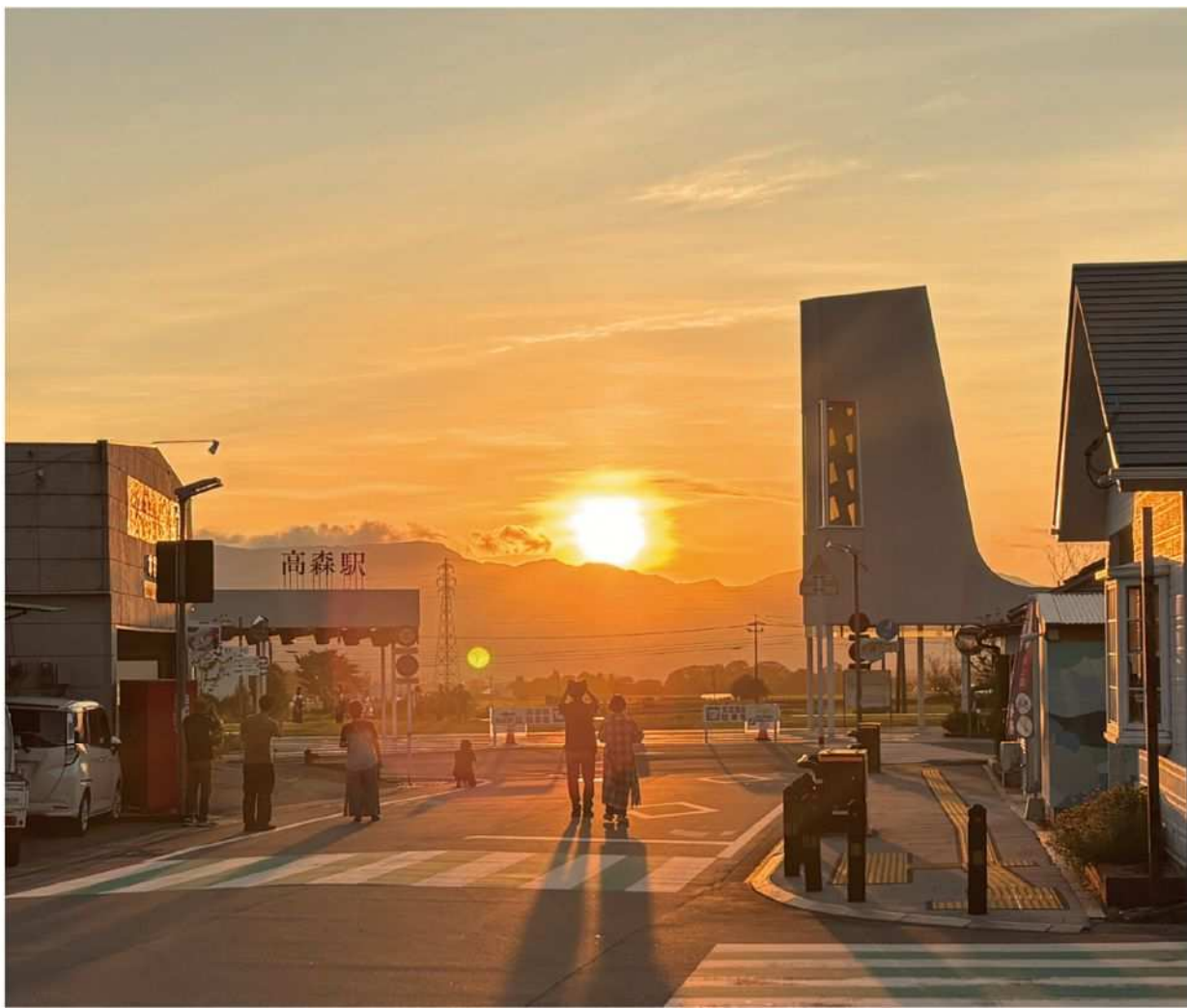
一見複雑そうに見える修羅組みですが、下図に示した同色で塗られた部材は実は同一平面かつ直交しています。この部材を地組みして吊込み、先行するジグザグの部材に落とし込んでいくことで容易に建て方を行うことができます。



修羅組みの構造と組み立て方向



160m の木の広場がまちとカルデラをつなぎます



カルデラに落ちる夕日を眺めることができます



職人ワークショップ (2021) 地元の工務店と組立て順の確認を行いました
修羅組みパズル (2022) 3D プリント出力のパズルを中学生に組立ててもらいました

修羅組みの展開検討 (2023) 3 次元で組むことで曲面屋根や曲面壁への展開が可能です



庇：ガラスで紫外線をカットして木材を保護しました



回廊：修羅組みは柱頭で支え、金物はほぼ見えません



駅舎：直方体の貫入と付加でエリアを表現。隅柱を省いて阿蘇五岳への視線を確保しました



交流施設：天井は集成材 2 次元相持ちです